

## 施工後、現場対応でリモコン相互干渉防止にする場合 ('06ZK(CES9002・9012・9022)用)

### 1. 施工後の対応

万一、連立トイレに正規品のみを取り付けて誤作動した場合は、現場で特注品に切り替えることができます。  
この場合は、必ずリモコンと本体に特殊コードラベルを貼ってください。(メンテナンス性向上のため)  
特殊コードラベルの品番は、特殊コードラベル\*一覧をご確認ください。

\*アフターサポート切れのため、部品の発注不可です

### 2. 連立トイレの配置例

正規品	～タ 特イ 1 ～ 1	～タ 特イ 2 ～ 2	正規品	～タ 特イ 1 ～ 1	～タ 特イ 2 ～ 2
～タ 特イ 3 ～ 3	～タ 特イ 4 ～ 4	～タ 特イ 5 ～ 5	～タ 特イ 3 ～ 3	～タ 特イ 4 ～ 4	～タ 特イ 5 ～ 5

## 3. 連立トイレ対応方法

※設定変更が下記説明書で行えない場合は、TOTOメンテナンスへご依頼下さい。(有償)

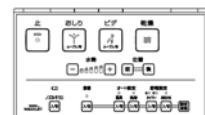
&lt;&lt;本体側の設定方法&gt;&gt;

※作業途中で失敗した場合は、もう一度最初からやり直してください。

手順	リモコン特殊コード切り替え方法(ウォシュレット本体側)																					
	<p>※途中で失敗した場合は、もう一度最初からやり直してください。</p> <p>本体操作部の <b>運転入/切</b> を10秒以上押し続ける</p> <p>⇒10秒後に全てのランプが<b>2秒間点灯</b>します。</p> <p>1 <b>手順3まで押したまま</b></p> <p><b>本体表示部</b></p> <p>運転中 タイマー節電中 便座 温水 TOTO</p> <p>文字が緑色に点灯します。 <b>※全点灯2秒間</b></p> <p>運転中 タイマー節電中 便座 温水 TOTO</p> <p>文字が点滅などしたら最初からやり直してください。</p> <p>《下図は例です》</p> <p><b>本体操作部</b></p> <p>脱臭 おしり入/切 ビデ入/切 運転入/切 凍結防止入/切 高切 便座 乾燥 温水</p>																					
2	<p><b>運転入/切</b> を押したまま本体の全ランプが点灯(2秒間)</p> <p>すると、<b>すぐに</b> <b>ビデ入/切</b> を5秒以上押す。</p> <p>5秒後に手順3の設定コードのようにランプが点灯します。</p> <p><b>本体操作部</b></p> <p>脱臭 おしり入/切 ビデ入/切 運転入/切 凍結防止入/切 高切 便座 乾燥 温水</p>																					
3	<p>[※失敗した場合は、もう一度手順1からやり直してください。]</p> <p><b>運転入/切</b> を押したまま、<b>おしり入/切</b> を押す。</p> <p><b>おしり入/切</b> を押すたびに標準→特1→特2…特9→標準と設定が切り替わります。</p> <p><b>本体表示部</b></p> <p>表示部 コード 標準 特1 特2 特3 特4 特5</p> <table border="1"> <tr> <td>運転中</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>温水</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>便座</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>◎…点灯 ×…消灯</p> <p><b>本体操作部</b></p> <p>脱臭 おしり入/切 ビデ入/切 運転入/切 凍結防止入/切 高切 便座 乾燥 温水</p>	運転中	◎	×	◎	×	◎	×	温水	◎	◎	×	×	◎	◎	便座	◎	◎	◎	◎	×	×
運転中	◎	×	◎	×	◎	×																
温水	◎	◎	×	×	◎	◎																
便座	◎	◎	◎	◎	×	×																
4	<p><b>運転入/切</b> から手を離した時点で設定したコードになります。</p> <p>※手順1、2の操作で設定したコードを確認することができます。</p>																					
5	<p>ウォシュレット本体の裏面に切り替え後の特殊コードラベルを貼る。</p> <p>例 <b>リモコンコード特1</b></p> <p>この商品は特1 タイプのリモコンでご使用ください。</p>																					



## 左図リモコンがセットされている場合のリモコン設定方法



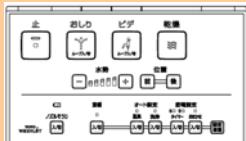
上図『補修品専用リモコン』の設定方法は、次ページをご参照ください。

### 〈リモコン側の設定方法〉

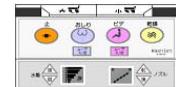
手順	リモコン特殊コード切り替え方法(リモコン側)																												
1	<p>①リモコンハンガーからリモコンを取りはずす。      ②電池カバーを開けて、乾電池を取りはずす。      ③「止」SWを押したままにして、液晶表示が消えることを確認する。      (乾電池が入ったままだと切替わらない場合があります。)</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; text-align: center;"> <b>ご注意!!</b>      電池を必ず抜いて作業を行ってください。      電池を抜かないと連立モードに切り替わりません。   </div>																												
2	<p>リモコン裏面のねじ4本をプラスドライバーで取りはずす。</p>																												
3	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; text-align: center;"> <b>ご注意!!</b>      ①ジャンパー線の切断は、切りまちがえないように注意して行ってください。      ②ジャンパー線の切りくずがリモコン内に入らないように注意してください。   </div> <p>◎…つながったまま ×…切断</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コード</th> <th>標準</th> <th>特1</th> <th>特2</th> <th>特3</th> <th>特4</th> <th>特5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JP1</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>JP2</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>JP3</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p>リモコン基板上の3本のジャンパー線を、左表にしたがってニッパーで切断することにより特1～特5へ切り替える。</p>	コード	標準	特1	特2	特3	特4	特5	JP1	◎	×	◎	×	◎	×	JP2	◎	◎	×	×	◎	◎	JP3	◎	◎	◎	◎	×	×
コード	標準	特1	特2	特3	特4	特5																							
JP1	◎	×	◎	×	◎	×																							
JP2	◎	◎	×	×	◎	◎																							
JP3	◎	◎	◎	◎	×	×																							
4	<p>①裏板をねじでリモコンに取り付ける。      ②リモコンに乾電池を入れて、リモコンハンガーに取り付けてください。</p>																												
5	<p>切り替え後の特殊コードラベルを貼る。      ◎リモコンの裏面に貼付してください。</p>																												

※1 ウォシュレット本体側の切替作業終了後、必ず作動確認を行ってください。

※2 基板内部を扱う作業になりますので、静電気及び取り扱いには十分ご注意ください。  
 (内部精密機器を破壊するおそれがあります。)

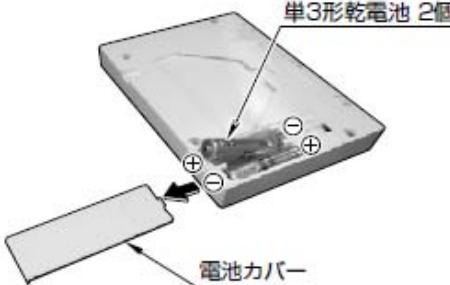
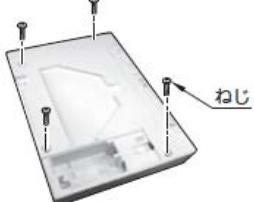
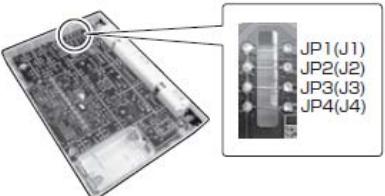


## 『補修品専用リモコン』がセットされている場合のリモコン設定方法



上図のリモコンの設定方法は、前ページをご参照ください。

### 〈リモコン側の設定方法〉

手順	リモコン特殊コード切り替え方法(リモコン側)																																			
1	 <p>①リモコンハンガーからリモコンを取りはずす。      ②電池カバーを開けて、乾電池を取りはずす。      ③「止」SWを押したままにして、液晶表示が消えることを確認する。      (電源が入ったままだと切替わらない場合があります。)</p> <p><b>ご注意!!</b>      電池を必ず抜いて作業を行ってください。      電池を抜かないと連立モードに切り替わりません。</p>																																			
2	 <p>リモコン裏面のねじ4本をプラスドライバーではさし、裏板を取りはずす。      ◆裏板を外す際は、上側から外してください。      (下側から外すと外れにくい場合があります。)</p>																																			
3	 <p>◎:つながったまま ×:切断</p> <p><b>ご注意!!</b></p> <p>◎ジャンパー線の切断は、切りまちがえないように注意して行ってください。      ◎ジャンパー線の切りくずがリモコン内に入らないように注意してください。</p> <p>リモコン基板上の4本のジャンパー線を、左表にしたがってニッパで切断することにより特1～特5へ切り替える。</p> <p>*補修品専用リモコンではジャンパー線が4本ありますが、本体側で特コードを設定する場合は特5までしか利用できませんので特1～特5内で設定を行ってください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コード ジャンパー線</th> <th>標準</th> <th>特1</th> <th>特2</th> <th>特3</th> <th>特4</th> <th>特5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JP1</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>JP2</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>JP3</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>JP4</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table>	コード ジャンパー線	標準	特1	特2	特3	特4	特5	JP1	◎	×	◎	×	◎	×	JP2	◎	◎	×	×	◎	◎	JP3	◎	◎	◎	◎	×	×	JP4	◎	◎	◎	◎	◎	◎
コード ジャンパー線	標準	特1	特2	特3	特4	特5																														
JP1	◎	×	◎	×	◎	×																														
JP2	◎	◎	×	×	◎	◎																														
JP3	◎	◎	◎	◎	×	×																														
JP4	◎	◎	◎	◎	◎	◎																														
4	 <p>①裏板をねじでリモコンに取り付ける。      ②リモコンに乾電池を入れてリモコンを取り付けてください。      ◆乾電池の入れかたは、手順1を参照してください。</p> <p><b>ご注意!!</b>      裏板を取り付ける前に、電池端子が正しく取り付けられていることを確認してください。</p>																																			
5	 <p>例      リモコンコード特1      このリモコンは特1タイプの本体のみを操作できます。</p> <p>切り替え後の特殊コードラベルを貼る。      ◆リモコンの裏面に貼付してください。</p>																																			

※1 ウォシュレット本体側の切替作業終了後、必ず作動確認を行ってください。

※2 基板内部を扱う作業になりますので、静電気及び取り扱いには十分ご注意ください。  
 (内部精密機器を破壊するおそれがあります。)